

別刷、著作本などは添付しない。  
引用する場合は、本書式に書き換える。

【専門医試験受験用】記載は、別紙の記載要領に従ってください。

【専門医受験用】  
学会入会年月 : (西暦) 2020 年 4 月

申請者氏名: 漢方 太郎  
会員番号: 22098765  
所属機関名: ABC病院  
研修施設名: 東洋漢方クリニック

# 記載例

チェックリストもご参照ください

患者情報の特定につながる患者名・イニシャル・生年月日・居住地・職業は記載しない。

1	カルテ番号	12345	年齢	70	性別	女性
治療期間	2024年11月23日～2025年1月31日		治療中	治療機関名: 東洋漢方クリニック		
診断	末梢神経障害					
処方または取	牛車腎気丸エキス顆粒(医療用)〇〇社, 7.5g/日(分3)					
訴	両足裏のジンジンするしびれ					
既往歴	36歳: 虫垂炎手術					
家族歴	姉: 心臓弁膜症					
現病歴	2024年10月、自転車で転倒。以後、両足裏のしびれ感が出現し、1か月経過しても改善しなかった。冷えるとしびれは増悪し、風呂に入るといくらか軽減した。整形外科で精査したところ、両足裏のしびれの原因は明らかではなかった。2024年11月23日、漢方治療を希望して初診。					
西洋医学的所見	身長153cm、体重42kg、血圧132/78mmHg、脈拍数62回/分・整。胸腹部に異常所見なし。両側下腿に軽度浮腫を認める。神経学的所見では、膝蓋腱反射、アキレス腱反射に左右差、亢進・減弱を認めない。下肢拳上試験は陰性。血算、血液生化学所見に異常なし。腰椎X線で異常なし。					
漢方医学的所見	望診: 体格はやや痩せ型、顔色は良好。両側下腿、特に足首から先に浮腫を軽度認める。 聞診: 声に張りあり。口臭はない。 問診: 四肢の冷えがある。のぼせやほてりは認めない。むくみがある。尿回数は10回/日。 脈診: 沈、虚。 舌診: 暗紅色で、乾燥した白苔に被われており、舌下静脈怒張を認める。歯痕を認めない。 腹診: 腹力軟弱で、小腹不仁と左右臍傍部の軽度の圧痛を認める。胸脇苦満、心下痞は認めない。					
経過	初診時に牛車腎気丸エキス7.5gを分3で処方。6週後、午前中はしびれが少し軽くなった。8週後、午前中のしびれが和らいだが、午後2時以降になるとしびれてくる。しかし牛車腎気丸が有効と考えて、同処方継続したところ、10週後、足全体が温まり、しびれが消失した。					
考察	牛車腎気丸は、『濟生方』が原典で「腎虚シテ腰重ク、脚腫シ、小便利セザルヲ治ス」とあり、腎虚があり疲れやすく四肢の冷えがあり、脚がむくみ尿利減少する者の腰痛やしびれ、排尿障害に類用される。牛車腎気丸証の特徴は、腎虚があり腹診で小腹不仁を認め、四肢が冷え、浮腫があり排尿異常があることである。本症例では排尿障害は認めなかったが、腹診で小腹不仁を認め、四肢の冷えがあり、両側下腿、特に足首から先に浮腫を認めたことから、腎虚によるしびれと考えると牛車腎気丸を用いた。牛車腎気丸を服用してからしびれ感が軽減し、10週間後にはしびれが消失し、冷えも改善したことから牛車腎気丸が有効であったと考えられた。本症例では腎虚と瘀血所見を認めることから、鑑別処方としては六味丸、八味地黄丸、疎経活血湯などがあげられる。六味丸と八味地黄丸は本処方と同様に腎虚に用いられるが、六味丸は四肢の冷えよりもほてり感が伴いやすく、八味地黄丸は下肢の浮腫は軽度である。疎経活血湯は瘀血があり、下肢のしびれに用いられる処方であるが、夜間や朝方の起床時に痛みが起りやすい特徴があり、本症例はそれほど日内変動を示していない。					

治療期間は西暦で年月日を記載し「治療終了」または「治療中」のいずれかを記載  
治療中の場合は症例記載日を治療終了年月日とする  
治療機関名は用紙右上の所属機関名と異なる場合のみ記載する  
処方または取、漢方医学的所見、考察の()内は消して記載してもよい

記載内容を複製後、印刷物に署名(自筆)する

指導医  
自筆署名 生薬花子

症例はできるだけ広範囲から。  
同一疾患で同一処方1例のみ(複数不可)。  
日常よく見られる疾患を5例以上。  
※耳鼻科・眼科・皮膚科などの分野が偏りやすい診療科の場合は、治療の主たる領域以外への波及効果についても記載し、漢方医学的に多岐にわたって診療していることを示す。  
俗称・略語は避け、漢方独特の症状などは例外として、出来る限り標準病名に準拠する。

証を決定するのに参考となる適切な自・他覚所見の記載。望診、問診、脈診、舌診、腹診を具体的に(望診は体格・顔色に加えて2所見以上、脈診、舌診は各2所見以上、問診は3所見以上、腹診は腹力に加えて2所見以上)。鑑別に必要な陰性所見も記載する。

専門医新規受験の場合は印刷した症例報告を指導医が確認した後に署名(自筆)が必要。(更新や認定医受験の場合は不要。)

2剤以上の併用はできるだけ少なく。  
単一処方による治験を半数以上。  
同一処方の症例は避ける。  
エキス製剤番号は不可。処方名、投与量で記載。  
× 〇〇社30番  
○ 真武湯エキス顆粒 〇〇社, 7.5g  
※生薬はg数を記載。

原典とその条文などの記載。  
投与した処方の出典である書物名(原典)を挙げ、この患者に有効な根拠となる条文を記載。原典とは傷寒論・金匱要略・和剂局方などであり、教科書や参考文献類ではない。  
処方毎の原典は「漢方処方の原典と条文の手引き」を参照。  
漢方医学的診断に基づく処方選択の根拠を記載。

当該症例における鑑別処方を記載。  
末梢神経障害で牛車腎気丸を選んだ場合、六味丸、八味地黄丸や疎経活血湯なども候補と考えられるが、牛車腎気丸を選択した理由(又は六味丸などを選択しなかった理由)を記載。

西洋薬との併用の場合には、漢方的治療が有効であったと判断する根拠を記載。

感想、予後の記載は不要。

【専門医試験受験用】記載は、別紙の記載要領に従ってください。

申請者氏名 漢方 太郎  
会員番号 22098765  
所属機関名 ABC病院  
研修施設名 東洋漢方クリニック

【専門医受験用】  
学会入会年月 (西暦) 2020 年 4 月

# 悪い記載例

治療期間は正確に入力する。

エキス製造メーカー名、1日量(g)を記載する。

発症年齢を記載。

空欄の項目があってはならない。特記事項がなければ「特記事項なし」と記載。

適切な検査結果を記載する。

改善までの期間を記載する。  
経過から漢方的治療が有効であったと判断する根拠を記載。  
他の随伴症状についても経過を記載する。  
西洋薬を併用した場合、漢方薬が有効であったことがわかるように記載。

1	カルテ番号	12345	年齢	70	性別	女性
入力ミス	2024年11月23日～2024年1月31日	要選択	治療機関名	ABC病院		
診断	末梢神経障害					
処方または取穴	牛車腎気丸エキス顆粒(医療用), 3包/日(分3)					
主訴	両足裏のジンジンするしびれ					
既往歴	虫垂炎手術					
家族歴	[空欄]					
現病歴	自転車転倒後、両足裏のしびれ感が出現した。整形外科で精査したが、両足裏のしびれの原因は明らかではなかった。2024年11月23日初診。					
西洋医学的所見	身長153cm、体重42kg。両側下腿に軽度浮腫を認める。					
漢方医学的所見	脈候は沈。舌候は暗紅色。腹候は左右臍傍部の軽度の圧痛を認める。					
経過	初診時に末梢神経障害と考えメコバミンと牛車腎気丸エキスを処方。しびれが消失し、感謝された。					
考察	牛車腎気丸は、「金匱要略」の八味地黄丸に利水作用のある牛膝と車前子を加えたものであり、腎虚があり、脚がむくみ尿利減少する者に頻用される。本症例では、腎虚を認め、両側下腿、特に足首から先に浮腫を認めたことから牛車腎気丸を用いた。鑑別処方としては、六味丸があげられる。六味丸は、さらに桂皮、附子が含まれず冷えを伴わない場合に用いる。					

治療終了または治療中のいずれかを選択。

治療期間が所属機関と同じ場合は記載不要。

症状の発症時期を記載。  
受診までの経過を第三者にもわかるよう適切に記載する。

証を決定するのに参考となる適切な自・他覚所見の記載。望診、問診、脈診、舌診、腹診を具体的に(望診は体格・顔色に加えて2所見以上、脈診、舌診は各2所見以上、問診は3所見以上、腹診は腹力に加えて2所見以上)。鑑別に必要な陰性所見も記載する。

有効処方の原典・条文を記載する。  
本症例で腎虚と診断した漢方医学的診断に基づく根拠を記載する。  
鑑別処方については、一般的な鑑別処方ではなく、本症例に関しての鑑別処方を少なくとも2方剤以上記載し、それぞれの方剤における鑑別点を記載する。

専門医新規受験の場合は印刷した症例報告を指導医が確認した後に署名(自筆)が必要。(更新や認定医受験の場合は不要。)

治療期間は西暦で年月日を記載し「治療終了」または「治療中」のいずれかを記載  
治療中の場合は症例記載日を治療終了年月日とする  
治療機関名は用紙右上の所属機関名と異なる場合のみ記載する  
処方または取穴、漢方医学的所見、考察の()内は消して記載してもよい

記載内容を確認後、印刷物に署名(自筆)する  
指導医  
自筆署名